



打出駅周辺 歴史さんぽ

打出駅周辺には、たくさんの歴史スポットがあります。
駅から北へ向かって歴史を感じるまち歩きを楽しんでみませんか。

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115

1. 大名行列が通った西国街道の本街道

芦屋市域には、京都と九州の大宰府を結ぶ幹線道路が古くから通っていました。その道は、古代には山陽道と呼ばれ、江戸時代には西国街道と呼ばれていました。西国街道は、西宮市との市境付近で、北の本街道と南の浜街道の2つのルートに分かれ、生田神社(神戸市中央区)でふたたび合流します。このうち、北側の本街道は、現在の春日町や打出小槌町では鳴尾御影線にあたり、宮塚町や茶屋之町では北西に向かい国道2号にほぼ重なります。江戸時代には参勤交代のために西日本の各藩と江戸を往来する大名行列が、まさにこの道を通っていたのです。

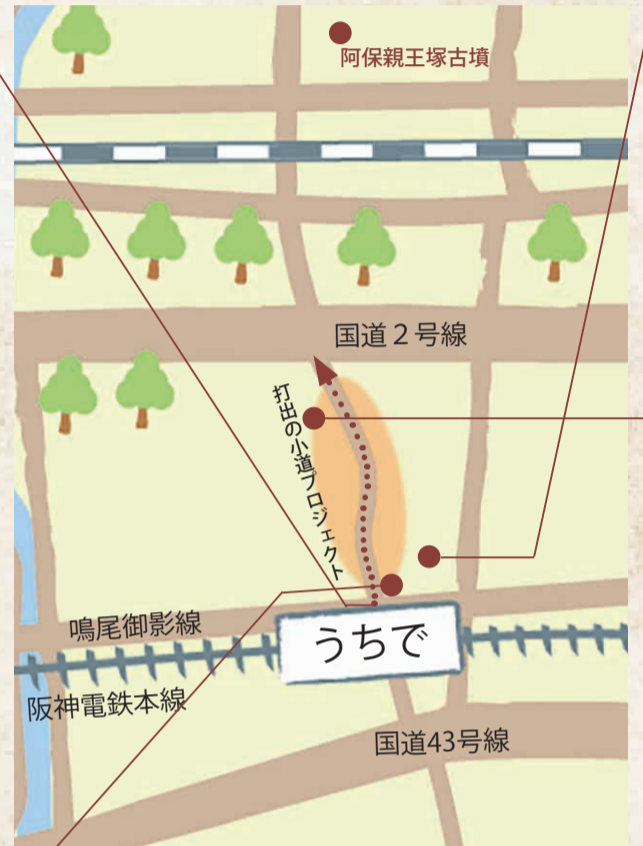
ちなみに、「打出」の地名は、京都の都人が西に向かって旅する際、初めて海に打ち出る場所であることから名付けられたといわれています。



阪神打出駅から出発します



鳴尾御影線



2. 打出地域に残る阿保親王の伝説



「阿保親王廟」と刻まれた石碑

鳴尾御影線の歩道には、^{あほしんのうびょう}「阿保親王廟」と、大きな文字が刻まれた石碑があります。この石碑は、西国街道を行きかう人々を翠ヶ丘町にある阿保親王塚古墳へ案内する道しるべで、側面には「平城天皇第四皇子是ヨリ五丁」と刻まれており、ここから5丁(約545m)北へ行けば阿保親王塚古墳にたどり着くことを示しています。

阿保親王塚古墳は、平城天皇の皇子で、歌人として有名な在原業平の父としても知られている阿保親王(792～842年)の墓と伝えられています。しかし、実際には古墳時代前期(4世紀)に阪神地域を広く治めていた地方豪族の墓であることが考古学の調査・研究で明らかとなっています。

江戸時代には阿保親王を先祖と崇める長州藩毛利家がこの古墳を整備し、灯ろうを寄進しています。また、副葬品の銅鏡が8面以上出土しており、その内の4面は阿保山親王寺(打出町)で大切に保管され、芦屋市指定文化財に指定されています。

このほかにも、打出地域には金津山古墳の黄金埋蔵の伝説をはじめ、阿保親王にまつわる言い伝えがいくつか残っています。

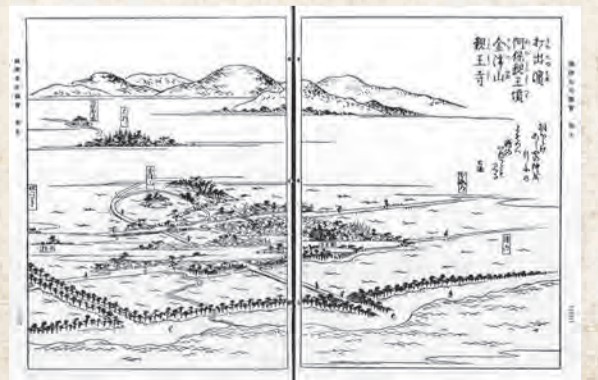


阿保親王塚古墳

トピックス

『摂津名所図会』に描かれた打出

江戸時代には、各地の名所や旧跡を紹介する、現在の旅行ガイドブックのような地誌がいくつか作られています。1796(寛政8)年に刊行された『摂津名所図会』もそのひとつで、摂津国のさまざまな名所等が紹介されています。その中で、当時の打出村も挿絵を添えて紹介されており、打出村の名所として「阿保親王塚」「金津山」「打出浜」が取り上げられています。



『摂津名所図会』(秋里籬島著、竹原春朝齋画)